安全な避難先：資本流入、富の移住とその政治：ジュネーブ、香港、ドバイとの比較

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

ジュネーブ：避難所、一括課税と資産の返還

ジュネーブとシンガポールは安全な避難先という役割を共有していますが、その歴史は異なります。ジュネーブの避難所としての性格はもともと宗教的・政治的なものでしたが、富裕な外国人に対する現代の魅力は、主として特定の税制上の手段に基づいています。一括課税（*imposition d'après la dépense*）は、スイスに居住しながらそこで就労しない外国籍の人について、その支出を基準に課税することを認める制度です。ジュネーブは40万スイスフランの最低課税標準を設けてこの制度を維持しており、これを廃止する連邦レベルのイニシアチブは2014年に投票者の59.2%によって否決されました。2022年にスイスでこの方式により課税された納税者は3,478人で、そのうち520人がジュネーブにいました。[1] シンガポールには、これに

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

相当する制度はありません。その魅力は、一般的な税率の低さ、キャピタルゲイン税・相続税・富裕税がないこと、そしてファミリーオフィス向けの優遇措置にあります。

それでも、政治的な議論は似通っています。ジュネーブでは、シンガポールで富裕な外国人の優遇が問題視されるのと同様に、一括課税が法の下の平等の名の下に批判されています。どちらの地も、特権を廃止することなく、その対価を引き上げ、条件を課すことで批判に応えてきました。住宅も共通の圧力点です。ただし、シンガポールが印紙税を通じて直接介入するのに対し、ジュネーブは主として外国居住者による不動産取得を制限する連邦の規則に依拠しています。

不正資金については、スイスは資産の返還の法典化においてより先に進んでいます。外国の重要な公的地位を有する者の不正資産の凍結および返還に関する2015年12月18日の連邦法は、2016年7月1日に施行されました。同法は、連邦参事会がそうした資産を凍結することを認め、連邦行政裁判所による没収を定め、出身国における公益的なプログラムを通じた返還の仕組みを整えています。[2] シンガポールには同等の法律はなく、国際刑事共助と、第H部第III章で説明する汚職・麻薬取引その他の重大犯罪（利益没収）法（Corruption, Drug Trafficking and Other Serious Crimes (Confiscation of Benefits) Act）の没収制度に依拠しています。アバチャ事件以来のジュネーブの経験は、一人の独裁者の資産によって安全な避難先の評判がいかに長く傷つきうるかを示しています。

香港とドバイ

香港とドバイは、同じ家族をめぐってシンガポールと競い合っています。香港は2024年に投資に基づく居住制度である新資本投資者入境計画（New Capital Investment Entrant Scheme）を再導入し、許可対象資産への3,000万香港ドルの投資と引換えに居住権を付与しています。[3] 2024年2月には、永住者でない購入者に課される購入者印紙税（Buyer's Stamp Duty）を含め、

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

居住用不動産に対する追加的な印紙税も廃止しました。これは、シンガポールの60%の税率と対照的です。[4] ドバイは投資家に長期居住ビザを提供しており、個人所得税はなく、不動産市場の規制も緩やかです。これらの金融センター間のより広い競争については、第K部第III章で検討します。

この比較からは、シンガポールが質で競うことを選んだことがわかります。シンガポールは、そこに住みたい富裕層に競合都市よりも多くを求め、不動産についてもより高い負担を課しています。その見返りとして、安定性、法的確実性、評判を提供しています。これらは、香港の政治的変容やドバイの規制の歴史を考えると、両都市が対抗しにくいものです。この選択が今後も狙いとする家族を引き付け続けるかどうかは、第K部第VI章で検討するシナリオの一つです。

数字で見る

2025年末時点のシンガポールの運用資産残高：6.7兆シンガポールドル（10.1%増）、純流入額3,760億シンガポールドル。シンガポール国外からの資産の割合：76%、うちシンガポールを除くアジア太平洋地域からが39%。2025年末時点で税制優遇を受けるシングル・ファミリーオフィス：2,000超。2023年3月15日以降のグローバル・インベスター・プログラム：1,000万シンガポールドル（オプションA）、2,500万シンガポールドル（オプションB）、運用資産2億シンガポールドルでうち5,000万シンガポールドルを投下（オプションC）。同プログラムに基づき永住権を付与された投資家：2020〜2022年に年間約60人。2026年6月時点の人口：621万人、うち国民368万人、永住者55万人、非居住者198万人。2025年の新規国民と新規永住者：25,094人と35,352人。外国人に対する追加購入者印紙税：15%（2013年）、20%（2018年）、30%（2021年）、60%（2023年4月27日）。2023年第1四半期の民間住宅購入に占める外国人の割合：6.9%。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

2023年8月のマネーロンダリング事件：30億シンガポールドル超を押収、9億4,000万シンガポールドル超を没収、2025年7月にMASが9機関に総額2,745万シンガポールドルの制裁金。

注

1. Ressos, *Genève, place financière internationale*, partie E, chapitre V, « L'imposition d'après la dépense ». 2014年11月30日に投票の59.2%で否決されたイニシアチブ、40万スイスフランの最低課税標準に関するÉtat de Genèveのページ、および*Blick*, 2026年8月24日（2022年のスイスにおける納税者3,478人、うちジュネーブ520人）を参照。 ↩
2. Ressos, *Genève, place financière internationale*, partie I, chapitre IV。外国の重要な公的地位を有する者が保有する不正資産の凍結および返還に関する2015年12月18日の連邦法（FIAA, SR 196.1、2016年7月1日施行）について：連邦参事会による凍結、一定の場合に不正な出所が推定される連邦行政裁判所による没収、公益的なプログラムを通じた返還。 ↩
3. Hong Kong New Capital Investment Entrant Scheme。2024年3月1日から申請受付を開始し、許可対象投資資産への最低投資額は3,000万香港ドルです。同制度のウェブサイト（2026年11月最終閲覧）は、2026年11月1日以降に申請された純資産評価については、指定口座を通じて取引された金融資産のみが算入されると告知しています。 ↩
4. 香港政府、2024〜25年度予算、2024年2月28日：特別印紙税（Special Stamp Duty）、購入者印紙税（Buyer's Stamp Duty）、新規居住用印紙税（New Residential Stamp Duty）の即時廃止。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com